

GII

REPORT

第10回 レディース オールスター

5/13~18 ボートレース常滑



優勝戦メンバー

予想 一般 本誌	艇番	選手名	F・L	モーター			今回成績				
				出	行	伸	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
◎	△	① 浜田亜理沙	F	◎	◎	◎	① 一19	②② 六15四18	②⑥ 二35五16	② 三12	① 一18
○	◎	② 川井 萌		◎	◎	◎	③ 五19	①② 二07四11	④ 六30	⑤① 三16一11	① 二08
×	○	③ 関野 文		◎	◎	◎	④ 六17	①④ 二12一20	① 四06	③ 五13	① 二03
△		④ 細川 裕子		○	○	○	④ 六27	①① 三23一18	① 二10	④ 四18	② 一01
		⑤ 井上 遥妃		◎	☆	◎	①⑥ 四07三10	③ 五05	③ 六09	③① 二04一13	② 三21
×	⑥	⑥ 遠藤 エミ		◎	◎	○	② 三29	①③ 二12六23	③① 四12一01	⑤ 五15	② 四08

展示速報での採点

12R

- 1 浜田亜理沙 ☆☆☆☆
- 2 川井萌 ☆☆☆
- 3 関野文 ☆☆☆★
- 4 細川裕子 ☆☆☆☆
- 5 井上遥妃 ☆☆☆★
- 6 遠藤エミ ☆☆☆☆☆

*当日のスマホマクールで
配信したものです



優勝戦2マーク



埼玉支部の後輩、平川香織と中田夕貴に囲まれて

**2年連続ファン投票1位が優勝
気持ちで駆け抜けた浜田亜理沙**

常滑で初開催となったレディースオールスター。前回大会は守屋美穂がファン投票1位から優勝を果たしたが、今回もその流れを引き継ぐ結果となった。

ファン投票トップの浜田亜理沙はドリーム1号艇発進。そこで快勝すると、予選は2位通過。節間「投票してくれた方がいるので期待に応えたいですね」とことあるごとにファンへの思いをコメントし、機力以上に気持ちの強さを感じさせた。

準優勝戦は3レース全てでチルトを跳ねる選手が登場し、予想の難易度が爆上がり。どのレースも発売開始と締切では、オッズが大きく変動し、本命党も穴党も頭を悩ませたことだろう。

結果、10Rと12Rが波乱。10R 1号艇の前田紗希はスタート立ち遅れて2コースの川井萌にまくら

ただ、結果はタイトルホルダーが貫禄を見せる形になった。枠なり3対3の進入から、浜田がインから09のスタートを決めた。2コースより外に全く付け入る隙を与えない完璧なイン戦で押し切り、バックへ向いた時点で優勝を決めた。

その一方で2・3着争いは大激戦。2周バックで川井、関野、細川が競り合う間に遠藤が内を伝って浮上。2マークを先取り、5番手から大逆転に成功した。

れ大敗。12Rは予選トップの細川裕子が関野文に差されて2着惜敗。そんな流れの中、浜田が唯一逃げ切り、優勝戦1号艇を手にした。

優出メンバーは、浜田と遠藤エミ以外の4選手は女子ビッグ初制覇を目指す。なかでも関野文と井上遥妃はデビュー初優勝もかかる一戦となった。

F持ち選手のプレッシャー 事故点強化に打ち勝った浜田

5月から事故点に関する罰則強化されたことは既報の通り。優勝戦でF2になると事故点が50点加算され、1本目と合わせると最低でも70点になる。事故率が1・00を超えるると魔の八項による半間の休み、0・70以上だと強制的にB2級になる。しかも今回はGII優勝戦でもあり、これにGII・GIIのペナルティまで追加される。

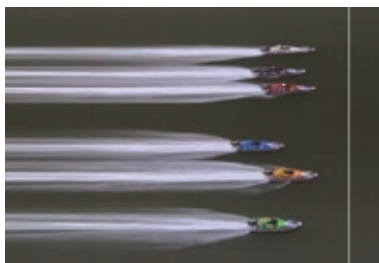
つまり、優勝戦でF持ちの選手は絶対にスタート勝負ができない状況になった。特に出走回数、目の途が立っていない期始めはより慎重にならざるを得ない。

そんな中でF持ちの浜田は優勝戦で09のスタートを決めた。「できる限りこうと思って、これが私の限界です」と早過ぎず、勝ち切れる最高の仕掛けができた。浜

優勝戦結果

着順	艇番	予想	選手名	タイム	進入	ST
1	①	△	浜田亜理沙	1.49.7	1	09
2	⑥	×	遠藤 エミ	1.51.5	6	13
3	②	◎	川井 萌	1.53.0	2	12
4	④		細川 裕子	1.53.5	4	18
5	③	○	関野 文		3	09
6	⑤		井上 遥妃		5	09
2連単 ①-⑥			970円	4番人気	逃げ	
3連単 ①-⑥-②			2980円	12番人気		

ハートマークで喜びを表現



田自身「優勝戦でF持ちの選手がいたら、スタート勝負を仕掛ける選手もいると思う」と言うように、これが一般的な選手心理だろう。F持ちの優勝戦1号艇でトップスタートを決めて逃げた精神力は圧巻の一言。ファン投票1位を含め、様々なプレッシャーがかかるシリーズだったはずだが、それを力に変えて見事な結果を出した。女子のトップレーサーとしてワンランクもツーランクもステップアップした証と言える勝利だった。

スタートはこれが精一杯

——レースを振り返って。

ホッとしています。いいスタートが行けたと思います。しっかりとハンドルを切ろうと意識していました。

——調整に関しては？

全部がばっちり合った状態で行けた。ベストの状態だったと思います。

——スタートは09のトップスタートタイ。

今期はいきなりフライングを切ってしまった、制度が変わって優勝戦の事故点は50点。外の人はぶち込んでくるかなとそれだけ心配でした。ここは優勝するつもりでいたので行ける範囲で行こうと。これが精一杯です。

——優勝の確信は？

2周1マークくらいですね。後ろが離れていたの。

——ファンの声援はどうだった？

パレードの時にたくさんの方の声援がいた。年末の景色がすごく良くて、もう一度味わいたいと思っていました。味わえてうれしい。

良い時はもちろん、ダメな時も応援してくださる方がいます。それが心の支えになっていて、本当にありがたいです。

——今後について。

やることはいつも一緒。しっかりと合わせて立ち向かいたい。目標はそんなに考えていないけど、目の前の1着をたくさん取れたら。フライングも切って1か月休みで心配だったけど、少しは賞金の上積みができました。気持ちを切らさないように頑張っていきたいと思います。



戦い終わって——

遠藤エミ(2着)

仕上がりは良かったです。1マークで波に当たった瞬間、それを越えられなかった。SGオールスターも一生懸命頑張ります。

川井萌(3着)

展示が合っていない、思い切ったスタートが行けなかった。レースでの調整も合っていないでした。

細川裕子(4着)

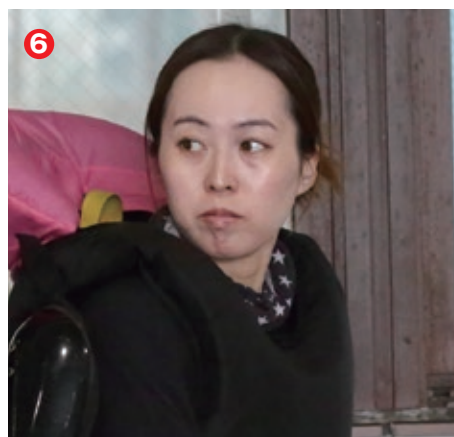
準優勝戦より良くなっていたけど、それでも大したことはなかった。今節は準優がすべて。この悔しさを次にぶつけたい。

関野文(5着)

仕上がりは悪くなかったけど、道中は冷静に走れなかった。スタートは思い切っていました。

井上遥妃(6着)

スタートは少し躊躇しました。ターンも失敗。もっと勉強して、頑張ります。



①レディースオールスター史上3人目となるB1級で
優出した井上遥妃(喜多須杏奈以来)。高速スタート
で大いに沸かせた。②勝利者インタビューの声援
が異次元の大きさだった川井萌。③減点を挽回し
優出した遠藤エミ。優勝戦は鬼気迫る走りで大逆
転。④地元の細川裕子は予選トップも準優で明暗
分かれる。⑤西岡育未は14万舟、5万舟を提供し、
高配当クイーンに。⑥女子ビッグ初優出の関野文
は節間通して好パワー。⑦予選ラストからチルトを
跳ねて見せ場を作った堀之内紀代子。⑧前田紗
希は準優でのスタートが悔やまれる。⑨ミス38位は
山田理央。⑩こういうシーンもこの大会ならではの
(西岡育未・森下愛梨・勝浦真帆)。

